

Ⅶ. 海外研修等実施の取組み

Ⅶ-1. マンチェスター・インターンシップ・プログラム

マンチェスター・インターンシップ・プログラム（以下M I P）は、2010年度15名、2011年度に2名が参加した。参加者が減少した理由は、インターンシップを行う理由から新たにビザ申請が必要になったことと、TOEFL・iBT スコアが必要になったことが考えられる。特に TOEFL・iBT に関しては、大学1年生や2年生でスコアを持っている人数が非常に少ない。またビザ申請に必要な TOEFL・iBT スコアは、総得点の他に、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの4つの要素のスコアの基準点をすべてクリアしている必要があり、応募のハードルが高いと考えられる。

しかしながら、過去のM I Pの参加者は、このプログラム参加後に、長期の留学に挑戦するケースも多く、更に就職に関しても成果を出している。このことから、今後ビザ申請の条件をクリアしている学生が増えることによって、再び参加者が増えることが考えられる。



プログラムの特徴などは、以下のとおりである（募集要項より）。

このプログラムの特徴

1. 履修に影響なく2ヶ月間の海外経験ができる！
2. 2ヶ月間で英語研修とインターンシップが経験できる！
3. ホームステイで生きた英語力と自立心を養うことができる！
4. このプログラムで、8単位が認定される！
5. 参加者全員に26万円の奨学金が支給される！

インターンシップ先は、一般企業、旅行・ホテル産業、政府機関、教育機関など、多くの業種がある！

※比較的小規模なオフィスでのインターンシップとなる。

＝実施目的＝

このプログラムは、創価大学経済学部・経営学部が主催し、今回が6度目の実施となる。このプログラムは、インターンシップを含めた海外研修において、生きた英語力の向上に留まらず、自ら希望する職種を経験することによって、国際意識の向上及び就職意欲の向上を目的にしている。

＝研修企画＝

マンチェスター大学ジャパンセンター

現地では、マンチェスター大学ジャパンセンターが全面的にサポートする。

＝募集対象＝

全学部生・大学院生

＝応募資格＝

以下のすべての条件が整っていることが、応募条件となる。

○TOEFL・iBTスコアを以下の通り取得していること

Reading セクション 8 点以上 Listening セクション 13 点以上、
Speaking セクション 19 点以上 Writing セクション 17 点以上 計 57 点以上

* 4つのセクションすべてにおいて上記の点数を上回っている必要がある。

※ TOEFL・iBT 受験のためには、パスポートもしくは運転免許証が必要となる。

※ 本年度より、TOEFL・ITP や TOEIC・IP のスコアは使用できません。

○創価大学の学部生・大学院生として在学していること

○すべてのガイダンスに必ず出席すること

○心身ともに健康上、問題のないこと

○研修のための十分な費用を用意できること

○保護者の承諾が得られていること

○ビザ取得のために英語力証明書の原本（上記参照）を提出できること

○ビザ取得のために本人名義の銀行の通帳を提出できること

※応募時にパスポートを取得していることが望ましい

Ⅶ-2. バンクーバー・インターンシップ・プログラム

就業力G Pの申請時に掲げた目標の中に、新たな海外インターンシップ先の拡大がある。これは、海外インターンシップ参加希望者が多く、今後も参加希望者が増えることが予想されるために、上記の目標を掲げた。そのために、新たな海外インターンシップ候補地として、カナダ・バンクーバーを訪問した。その結果、学生にとって効果的な海外インターンシップ・プログラムを作れると判断し、2011年度より、バンクーバー・インターンシップ・プログラム（以下VIP）を、開始した。

初めてのプログラムの場合、経験者による口コミがないために、応募者が少ないと予想をしていたが、定員15名の約2倍の応募者があり、15名を選考した。



プログラムの概要は、以下のとおりである（募集要項より）。

このプログラムの特徴

1. 履修に影響なく2ヶ月間の海外経験ができる！
2. 2ヶ月間で英語研修とインターンシップが経験できる！
3. ホームステイで生きた英語力と自立心を養うことができる！
4. このプログラムで、8単位が認定される！

5. 参加者全員に15万円の奨学金が支給される！

インターンシップ先は、一般企業、旅行・ホテル産業、政府機関、教育機関など、多くの業種がある！

=実施目的=

このプログラムは、創価大学経済学部が主催し、今回が初めての実施となる。このプログラムは、インターンシップを含めた海外研修において、生きた英語力の向上に留まらず、自ら希望する職種を経験することによって、国際意識の向上及び就職意欲の向上を目的にしている。

=募集対象=

全学部生・大学院生



=応募資格=

以下のすべての条件が整っていることが、応募条件となる。

- TOEFL・ITP もしくは TOEIC・IP で 450 点以上のスコアを取得していること
- 創価大学の学部生・大学院生として在学していること
- すべてのガイダンスに必ず出席すること
- 心身ともに健康上、問題のないこと

○研修のための十分な費用を用意できること

○保護者の承諾が得られていること

※応募時にパスポートを取得していることが望ましい/2012年3月26日より長い有効期間のパスポートが必要

以下の学生は応募資格がありません。

●別科生・通教生

●参加予定のセメスターに休学をしている学部生や大学院生

●期間の重なる他の語学研修・留学等に応募している学生（予定も含む）

=応募書類=

① 申込書（準備中） ② 健康診断書（パピルスメイトで発行可）

=応募期間=

2011年7月25日（月）～9月23日（金）

=応募書類提出先=

経済学部事務室（文系A棟2階）

=説明会=

2011年9月16日（金）16：40 A棟 A207教室

=選考方法=

参加者は、以下の項目で選考する。

① 提出書類（提出された申込書、健康診断書） ②TOEFL・ITPもしくはTOEIC・IPのスコア③ 成績評価（GPA等） ④ 面接試験の評価

=SFU（サイモン・フレーザー大学）の英語研修（ELC）やCTCなどについて=

ELC (English Language and Culture Program) は、1995年よりSFU (Simon Fraser University) が独自に開発してきたプログラムであり、海外からの留学生や、カナダ国内でESL (English as a Second Language) を学ぶ学生に対し、戦略的な英語学習法をもとに、語学能力を高め、カナダの文化への理解を深める有益なプログラムとなっている。更にこのプログラムは、コミュニケーション能力を育み、それとともに発想の多様性と学習意識を深めることを重視している。経験豊富な学位保持者の教授陣が、SFU独自の教材を使用し、個々の学生の実力を踏まえながら授業を進める。また、このプログラムは、カナダを含む北米の思考・文化に根ざした広範囲な物事に対する理解を深めるとともに、グローバルな視野で将来の進路を考えるために有効である。*サイモン・フレーザー大学（バンクーバー）のURL：<http://www.vancouver.sfu.ca/>

サイモンフレーザー大学のELCでは、英語力や学習スキルを磨きながらカナダの文化に対する理解を深めることができる。既存の教科書や問題集、単語集などは使わず、実際にカナダで使われている生きた英語を使う。例えば、新聞記事・ウェブサイト・雑誌・テレビの映像などである。これらの教材を利用した授業は、コミュニケーション力 (Communication) ・多様性 (Diversity) ・自己認識力 (Self-Awareness) ・批判的思考力 (Critical Thinking) の4つの要素を伸ばすために学生中心のスタイルで行われている。

図表Ⅶ－ 2.

授業名	時間		月	火	水	木	金
Canadian Studies	4	9:30 - 10:20	Composition	News Media	Listening Practice	News Media	Listening Practice
Listening Practice	3	10:30 - 11:20		Canadian Studies	Popular Culture		
News Media	4	11:30 - 12:20	Popular Culture	Oral Skills	Canadian Studies	Oral Skills	Composition
Oral Skills	4	1:30 - 2:20	Oral Skills	Popular Culture	Field Trip	Canadian Studies	FREE AFTERNOON
Popular Culture	3	2:30 - 3:20					
Composition	4	3:30 - 4:20	News Media	FREE PERIOD		FREE PERIOD	
Field Trip	3						

＝授 業 内 容＝

ELCの研修は、以下の7つの授業内容で構成されている。

☆Canadian Studies☆

地理・歴史・政治・社会制度などのトピックを学びながら、英語の文化的背景に焦点を当てた授業を行う。更にまた現在のカナダの人々の興味や関心事に焦点を当てて議論を行う。この授業では、個人での学習とともに、少人数でのグループワークを行う。新聞や雑誌の記事・地図・図表・映像資料テレビのニュースやドキュメンタリーなどの教材をもとに学習する。参加者はこの授業を通してカナダの人々が言っていることをどのように受け止め、解釈し、議論し、反応すればよいかということ学ぶことができる。これらの学習を通して、カナダのみならず、どの国においても、その国の文化的背景を理解することのできる力を得ることができる。

☆Composition☆

英文法と、カナダの人々に伝わりやすい英文を書く方法を学ぶ授業である。どのように自分自身の考えを構成し、自らの考えを表現すればカナダの人々にとって理解しやすいのかということ学ぶことができる。

☆Listening Practice☆

この授業では、カナダにおいて日常生活の中で話されている英語を理解する力を伸ばす。イディオムやスラングなどのボキャブラリーを増やし、日常の振る舞いや話し言葉の文脈から内容を理解する手がかりをつかむ力を付ける。この授業を受けることにより、参加者が教室以外で学習を継続する際にも役立つスキルが身に付く。

☆Popular Culture☆

様々なメディアを通して、北米の人々の考え方や様々な制度や文化を学ぶ。英語を学ぶ学生の多くは、テレビや音楽、日常会話、ビジネスの交渉の場などで使われている英語の理解に苦戦する。そこで、スラングやイディオム、そして文脈の中にある手がかりを理解できるようにする。どんなことが話され、なぜそれがそのように話されているかを理解できるようになる。

☆Oral Skills☆

スピーキングに特化した授業である。フォーマルな状況でのスピーチやインフォーマルな会話を想定した練習によって、明瞭で流暢にスピーキングができるようになることを目指す。発音・リズム・強調・音量・プロジェクション・イントネーション・抑揚・リンキング・ボディーランゲージなど、スピーキングの様々な側面をターゲットとし、自然なスピーキングの練習・ロールプレイング・ディベート・カナダ人へのインタビュー・スピーチ・プレゼンテーションなどを通して流暢に英語を話せるようになり、英語を話す自信を付ける。

☆News Media☆

この授業では、カナダのニュースや新聞の中で何が話され、書かれているのかを理解できるようになることを目標としている。電子メディアや紙媒体の資料を通して、リスニング、リーディング、ライティングの練習を行う。その中で、ニュースの中の言葉や映像、考え方を理解する方法を学ぶ。更にこの授業では、カナダの人々が感心を持っている時事問題についても触れる。

☆Field Trip☆

フィールドトリップでは、カナダ文化の様々な側面に直接触れることのできる機会を学生に提供する。フィールドトリップを通して、教室外における生きた英語によるコミュニケーションスキルの練習をする。フィールドトリップの行き先としてよくある例は以下の通りである。

・BC Law Courts 訪問、バンクーバーアートギャラリー見学、地元テレビ局訪問、ホームレス施設訪問、
・スタンレーパークにて自然観察、グランビルアイランドにてスカベンジャーハント（ゴミ拾い競技）など

☆課外活動・イベント☆

最低週1回、ELCの学生サポートアシスタントが、バンクーバーのユニークな側面に触れながら他のELCプログラムの学生とも交流できる楽しいアクティビティを企画している。アクティビティは基本的に金曜日の午後に行われているが、まれに他の曜日の夜や週末に行われることもある。アクティビティの例は以下の通りである。

・演劇、スカベンジャーハント（ゴミ拾い競技）、カヤック乗り、ホワイトウォーターラフティング、スキー/スノーボード/スノーシュー（雪靴を履いて雪景色を散策）、スタンレーパークにてサイクリング、サッカーやホッケーなどの試合観戦、ロッククライ

ミング（室内）

これらのウィークリーのアクティビティーに加え、学生サポートアシスタントがゲストスピーカーを招き、カナダの中等教育を終えた学生の教育に関する興味深く有益な講演会を行う。

＝CTCを中心にインターンシップ先をコーディネート＝

カナダ西部のブリティッシュ・コロンビア州に於けるツーリズム&ホスピタリティ業界へのキャリア・カレッジとして、高い評価と実績のあるCTC（カナディアン・ツーリズム・カレッジ）は、SFUにおける英語研修の結果を考慮し、JTBインターナショナル・カナダ社の教育事業部JEIC（JTB Educational International of Canada）と共同して、学生の希望をもとに、インターンシップの受入れ先をコーディネートする。CTCは1980年に創立し、30年の長きに渡り、数多くの卒業生がツーリズムやホスピタリティ業界に進み、受入れ企業等から、約90%の高い満足度を得ている。CTCは、各観光局などとの信頼関係の上に、ホテル・エアライン・アトラクション・交通関係・レストランなどをアレンジし、JEICは、バンクーバー周辺の教育委員会・公立学校・周辺都市の行政機関・商工会議所・各種企業・NPO組織などをアレンジする。

カナディアン・ツーリズム・カレッジのURL：<http://www.tourismcollege.com/>

＝インターンシップが始まる週の最初の3日間は「ワールド・ホスト」プログラムに参加＝

「ワールド・ホスト」プログラムの内容（5時間×3日間・受講後、修了証を発行）

－1日目「ワールド・ホスト」－

BC州観光局によるカリキュラムで、BC州独自の「ホスピタリティ」のフィロソフィ（哲学・考え方）を学習。

－2日目「カスタマー・サービス」－

どの分野の仕事にも共通して必要な対顧客、対人関係の構築方法を学習。

－3日目「職場におけるビジネス&コミュニケーション」－

業種を超えてビジネスとしての発想、コミュニケーション力の育成法を学習。

Ⅶ－３．カリフォルニア・キャリア研修

研修の達成目標は、①アメリカとメキシコ経済の知識、②グローバルなキャリアについてのより深い理解、③異文化間理解の促進となっている。事前学習においてキャリアに必要な英語力について講義を受けた。学生はより具体的に英語力について理解し、その達成のためにどのような学習が必要か明確となった。現地では、現在国際的なキャリアで働いている人々約20名と質問会を開き、現場の状況を詳しく学んだ。企業訪問及び政府機関訪問でも、グローバルなキャリアで求められる資質について学生は積極的に質問し、理解を深めた。

出発前には、以下のとおり事前研修を行った。

図表Ⅶ－３－（１）

Date	Session
Wednesday December 14, 2011 16:40 – 19:00 Room A405	Pre-departure Study Session 1: English in Business by ALC. Focus: English communication skills needed in business.
Monday January 30, 2012 10:30 – 15:30 A321	Pre-departure Study Session 2 Focus: 1. Leadership training: Alpha groups and responsibilities 2. Research project explanation (action plan, collecting information, working outline)
Monday February 6, 2012 10:30 – 16:30 Main Tower 7F Presentation Room	Pre-departure Study Session 3 Focus 1. Creating presentations 2. How to gain the most from CCST by Guest speakers from 2011 CCST
Thursday February 16, 2012 10:30 – 16:30 Main Tower 7F Presentation Room	Pre-departure Study Session 4 Focus: 1. Lecture: US economy 2. Global employability 3. Intercultural awareness lecture and training
Monday February 20, 2012 10:00 – 12:30 Main Tower 7F Presentation Room 13:00-16:30 Group work on presentation	Pre-departure Study Session 5 Focus: 1. Lecture: economies of California and Mexico 2. Labor market in California and Mexico 3. Group work on preparing presentation
Thursday February 23, 2012	Study Camp Day 1

Assemble 10:00 Hachioji Seminar House Sakura-kan 1F Seminar Room	Focus 1. Presentation 1 2. Presentation 2 3. Presentation 3 4. Presentation 4 5. Lecture: Economic conditions
Friday February 24, 2012 Depart 16:00	Study Camp Day 2 Focus: 1. Presentation 5 2. Presentation 6

カリフォルニア・キャリア研修のスケジュールは、以下のとおりである。

図表Ⅶ－３－（２）

Date	AM	PM	Evening
Day 1 2/26 Sun		16:00 Assemble Narita Airport terminal 1, South Wing, 4F, Zone I (i) Departure Singapore Airlines (SQ) 012/ 18:30(9 hrs 55 min)	In airplane
Day 2 2/26 Sun	In airplane	11:25 Arrival LA airport half-day tour (Santa Monica, , etc.)	Hotel Study session
Day 3 2/27 Mon	10:00-	2 Interview sessions in English by groups	Hotel
Day 4 2/28 Tue	The Getty Center 10:00-12:00 Interview session	Japanese American National Museum lecture: 14:00-15:00 Consulate-General of Japan at LA Lecture: 15:30-17:00	Hotel Study session 20:00-21:30
Day 5 2/29 Wed	Self-study	Business Visit: FedEx Corporation Presentation: 15:30-17:30	Hotel Study session: Guest Speakers 20:00-22:00 Topic: global career
Day 6 3/1 Thur	Mexico Cetys University Lecture and exchange with students	Mexico Business Visit: LA Cetto Corporation Presentation: 1400-1530	Hotel

Day 7 3/2 Fri	SUA 10:30-12:00 campus	SUA Free time	Hotel Study session 20:00-21:30
Day 8 3/3 Sat	Free time	SUA Lecture: 15:00-16:30 Exchange with SUA students	Hotel
Day 9 3/4 Sun	Exchange session with youth 10:00-13:00	Exchange with Soka alumni members 14:00-16:00	Dinner 18:00-20:00 Hotel
Day 10 3/5 Mon	To LA airport 08:30	Departure LA Singapore Airlines (SQ)011/13:10	In airplane
Day 11 3/6 Tue	In airplane	Arrival Narita Airport 17:55/SQ011(11 hrs 45 min)	

VII-4. 研修ツアーの実施

2011年1月8日(土)・2011年7月10日(土)・2012年1月7日(土)の3回にわたり、経済学部生・留学生・教職員が参加をして、就業力向上のためのJASキャリア・スタディー・ツアーを開催した。これは、留学生と経済学部生が、日本人が働く様子を見学し、グローバルな視野で働くことの意義や自身に必要とされている就業力を考えるためのツアーとなっている。参加した経済学部生は、留学生の将来希望している職業をインタビューする中で、自身の職業観との違いをレポートにまとめた。また、留学生は、母国の労働者と日本の労働者の共通点や違いをレポートにまとめた。このツアーでは、サントリー武蔵野ビール工場などを訪問した。

